

機関番号：84601

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2010

課題番号：20520727

研究課題名（和文） 中近世庶民信仰絵画の自然科学的・実証的研究

研究課題名（英文） Study of religious pictures for peoples in medieval and early modern era with the approaching way of natural scientific and positive researching.

研究代表者

高橋 平明 (TAKAHASHI NARIAKI)

財団法人元興寺文化財研究所・研究部・研究員

研究者番号：60261210

研究成果の概要（和文）：

熊野観心十界図・那智参詣曼荼羅図・立山曼荼羅図などの中・近世期の庶民を対象として絵解きがなされた信仰絵画から部分画像を抽出して文字情報を付与し、画像と文字列のデータベースを構築した。また、本紙法量・紙継寸法・仕立て方法などの情報を採取して各本の比較をおこない、近赤外線撮影と蛍光X線分析により顔顔成分の分析と過去の修理の有無を確認した。

研究成果の概要（英文）：

Kumano-Kanshin Jyukkaizu, Nachi-Sankeimandarazu and Tateyama-Mandarazu, they are religious paintings that have been believed by peoples since medieval and early modern era. They are composed of many parts of scenes so that, at first, we connected the scenes to the meaning by characters on the Data-Base system. And secondly, we measured the whole size of them, in order to try to get classified groups of joining papers that compose whole the picture. Thirdly, with a view to try to get the evidence that informed the producing time, we detected the repaired parts with near-infrared photography and analyzed the paints by X-ray fluorescence spectrometer.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2009年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：日本美術史 仏教文化史

科研費の分科・細目：文化人類学・民俗学

キーワード：熊野観心十界図 那智参詣曼荼羅 立山曼荼羅 近赤外線撮影 蛍光X線分析

1. 研究開始当初の背景

熊野観心十界図・那智参詣曼荼羅図・立山曼荼羅図は中・近世期の庶民を対象として宗教的世界を絵解きしたものであり、1980年代からの研究は盛り込まれた説話文学的内容の検討を中心として国文学関係からなされてきた。ところが近年におよび熊野観心十

界図は50点余りもの遺例が確認されるにいたっており、制作年代の再検討をするためにも諸本ならびに関連する同様な絵画資料にも研究対象を拡大しつつ、画像そのものに立ち返っての比較検討や法量・仕立て方・顔料成分などの付帯する諸情報の確認なども必要な段階となってきた。

2. 研究の目的

諸大画面画像から任意位置の画像切り出して、これに文字列を付与して画像データベースを構築し、比較研究の支援とする。さらに、各部画面寸法の採取や仕立て型を検討し、顔料成分の自然科学的な分析成果なども盛り込み、当該諸本についての新たな分類の視座や研究の方向性を確立する。

3. 研究の方法

第一に、対象諸本ならびに関連絵画の画像について文字列情報を付与して画像と連携するデータベースの構築をはかり、画像比較の支援をはかる。

第二として、紙継ぎ寸法と仕立て寸法を採取して、これに基づく本紙制作形式の分類をおこなう。

第三に近赤外線撮影をおこなって過去の修理痕跡や描き直し部分を確認し、蛍光X線による顔料成分の分析をおこない顔料の同定をはかる。

4. 研究成果

(1) 諸本のデジタル画像データベース化と成果

熊野観心十界図	42点
那智参詣曼荼羅	10点
立山曼荼羅	5点
その他 関連画像	12点

上記の計67点について、iPallet Nexusを用いて文字列と画像のデータベースを構築し、研究を支援するものとした。

その他の画像には、禅林寺本・林久寺本の十王図、盛福寺本・源正寺本の十界図、さらに長命寺本の十界図二幅と参詣曼荼羅三幅などが含まれる。

滋賀・長命寺本とは参詣曼荼羅三幅と観心十界図二幅が旧塔頭寺院である穀屋寺から一度に見出されたものであり、しかも掛幅装ではなく、五幅とも折り畳み装のまま伝えられたものとして注目された。特に、折り畳み装形式が近世期においても踏襲されていたことを示す貴重な実例となる。

長命寺本の観心十界図二幅は、その図様が良く近似するものところから姉妹関係にあることがうかがえるものであるが、通例の熊野観心十界図と比較検討すると、同異が混在する点が注目された。まず、長命寺本でも「心」字から伸びる朱線が正しく菩薩界に結ばれることは、熊野観心十界図の同形式の一群、すなわち甲類形式と同じくするものであ

り、十界図としての概念を正しく理解して制作されたものであることがうかがえた。

次に注意されるのは、「心」字の左右に位置して、飛雲上に立つ天部形像である。通例の熊野観心十界図では、左右を対象的な女性天部形像として描くものであるのに対して、長命本では、向かって右の天部形像は異なり、右手に独鈷杵を握り、左手には鏡を持つ姿としてあらわされる。この持物形式からすれば、本図像は帝釈天を描いたものと理解できる。帝釈天は女性の往生所としての刀利天の教主であるので、向かって左の天部形像が女性であり、目連尊者の母、青苔を示すものとするれば、この場面こそ、目連母が地獄より救済されて帝釈天に迎えられて上天せんとする場面を絵解きしたことがほぼ確定されよう。一方、通例の熊野観心十界図では、帝釈天の理解があいまいなままに描かれたものであることも注意されねばならない。この目連救母譚が『三国伝記』に収載されており、長命寺が天台宗に属す西国観音霊場寺院であることなど、この図様が観心十界図に取り込まれた周辺事情に関わることも推測される。

このほか、中央に位置する坐像形式の三尊の存在、少年時の目連とされる姿が施餓鬼壇の前に描かれないこと、こけら経を安置した小祠が描かれることなど、通例の熊野観心十界図とは異なる図様を指摘することができる。原形としての熊野観心十界図から長命寺本のような異本が、後代に派生したとする見方にも再検討を迫るものであろうし、観心十界図の絵解きが、いわゆる「熊野比丘尼」によって独占的に行われていたとする従来の見解もまた見直す必要にも及ぶであろう。

しかしながら、こけら経を安置した小祠は、京都・泉涌寺本の地獄十王図にみられる図様であること、あるいは、奪衣婆とその背後の衣領樹の樹形は、熊野観心十界図のうちでも滋賀・興善寺本や秋田・西来院本などの甲本系にみられる樹形と近似すること、さらに藍色染料を用いたとみられる特徴的な青色など、共通点も見出されるものであり、その制作年代や絵師工房が近いものであることをうかがわせるものでもあった。

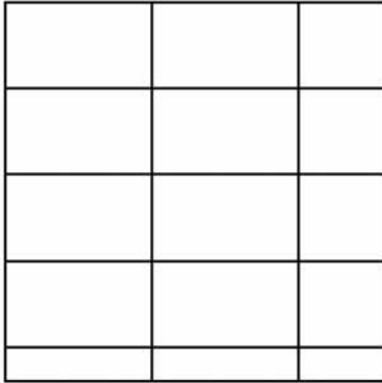
(2) 紙継ぎ形式

画面を構成する用紙の横方向の紙継形式については、これを観察して計測することにより、およそ下記のふたつの形式が存することが判明した。

① 柘目型形式

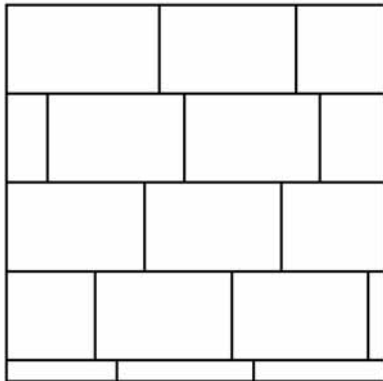
単純な紙継形式であり、必要な横幅いっばいに料紙を継ぎ、余りを断ち切るもの。紙継ぎの筋が縦に通る形式。最大では四枚が継が

れる部分が出現するもの。



②階段状形式

横方向に紙を継いだ筋が縦に通らない形式であり、縦方向の継ぎ筋は階段状になるもの。最大の紙継ぎは三枚になる。前提としては、横方向に継がれた料紙が存在し、紙継箇所を意図的に重ならないように配したとみられる形式。この紙継形式には、大画面の紙継技法としての工房や師弟関係での伝習が想定される。



(3) 近赤外線撮影・蛍光X線分析

額装形式となる和歌山・那智大社本について、蛍光X線による顔料元素の推測をおこない、画面に貼り付けられた短冊型の墨書について赤外線撮影をおこなって堂社名などの文字の判読に努めた。これは過去における堂社理解や描写空間の構成をうかがう上で重要なものである。

立山曼荼羅は金蔵院本・来迎寺本について、顔料分析と赤外線撮影をおこなった。特に、来迎寺本からは「花紺青」としてのコバルトCoを検出されたことは興味深く、制作年代は18世紀以降に降ることが推測された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 0 件)

[学会発表] (計 0 件)

[図書] (計 0 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

○取得状況 (計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

[その他]

ホームページ等 なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高橋 平明 (TAKAHASHI NARIAKI)

財団法人元興寺文化財研究所・研究部・
研究員

研究者番号: 60261210

(2) 研究分担者

大久保 治 (OOKUBO OSAMU)

財団法人元興寺文化財研究所・研究部・
技師

研究者番号: 30311492

山田 卓司 (YAMADA TAKASHI)

財団法人元興寺文化財研究所・研究部・
研究員

研究者番号: 30435903

(3) 連携研究者 なし

()

研究者番号: